2023

大学院 教育発達科学研究科

Graduate School of Education and Human Development

教育学部

School of Education

困難な時代の教育学と心理発達科学の探究

学部の創設

名古屋大学教育学部は、旧制の岡崎高等師範学校を基盤に、また先に設置された文学部の教育学と心理学の一部の分野を包括した教育研究組織として、1949年に創設されました。ちなみに2019年は創設70周年にあたることから、同年の秋に、関係者のみなさまとともに記念式典・祝賀会を執り行ったところですが、本学部の学統と学知の伝統の重みと本学部が置かれている社会的な役割と期待を痛感する貴重な機会となりました。

学部の特徴

本学部の創設当時、他の旧帝国大学系においても同種の学部が設置されました。それらと比べた場合の本学部の著しい特徴は、旧制高等学校のリベラルアーツの雰囲気と高等師範学校の教育実践研究とがうまく融合され、その伝統が脈々と受け継がれていることです。すなわち、教育学と心理学に関する理論知と実践知の融合的な探究の姿勢であり、これは本学部のカリキュラムにも具体化されており、例えば、実験実習や教育研究実習のように、キャンパスでの学びを基盤にしつつ、国内外の学校・地域・企業などの実践現場での実証的な研究やフィールド調査、ケース・スタディに重点をおいた科目を多く提供していることに現われています。

本学部のミッションと卒業生の活躍

本学部は、久しく教育学科と教育心理学科の2学科体制をとってきましたが、21世紀の課題と展望を見据え、1997年に人間発達科学科の1学科に再編しました。現在の学部は、人間発達科学科の1学科からなり、教育学系の3コース（生涯教育開発、学校教育情報、国際社会文化）と心理学系の2コース（心理社会行動、発達教育臨床）から構成されています。このプログラムの名称に示されているように、本学部のミッションは、教員養成系の教育学部とは異なり、人間の成長発達と教育のさまざまな問題を教育発達科学の知見と方法によって、幅広く探究していくことにあります。

本学部の卒業生は、これまでに4111名（令和元年度卒までの累計）にのぼります。例年、2割強の卒業生が大学院へ進学、同じく2割程度の卒業生が国家・地方公務員（教員も含む）に、その他の卒業生は、本学で培った知見を活かして、金融、サービス、製造、通信・情報、物流、人材派遣、コンサル事業など幅広い企業で活躍しています。

研究科の設置と沿革

大学院の研究科は、1953年に教育学研究科（教育学、教育心理学の2専攻課程）として設置されました。その後、時代の要請に応えて、発達臨床学専攻課程が設置された時期もありましたが（1990年）、2000年の大学重点化を機に、現在の教育発達科学研究科（教育科学と心理発達科学の2専攻課程）に改称、再編し、同時にリカレント教育のニーズに応えるべく高度専門職業人コースを設置しました。さらに2006年には、教育科学専攻の後期課程に教育マネジメントコース（我が国では初めてのEd.D.プログラム）を、続いて心理発達科学専攻の後期課程に心理危機マネジメントコースを開設し、基礎理論をベースにしながら実践的・実務的視点を重視した高度で応用的な研究遂行能力と学識を有する専門家を育成してきました。

研究科のミッションと特徴

本研究科は、教育科学及び心理発達科学研究における学術理論と方法を教授、研究し、その高度な専門性と深い学識、卓越した能力を培うことにより、これらの研究領域における学術研究者、高度な専門技術者、実践家を養成することを目的としています。

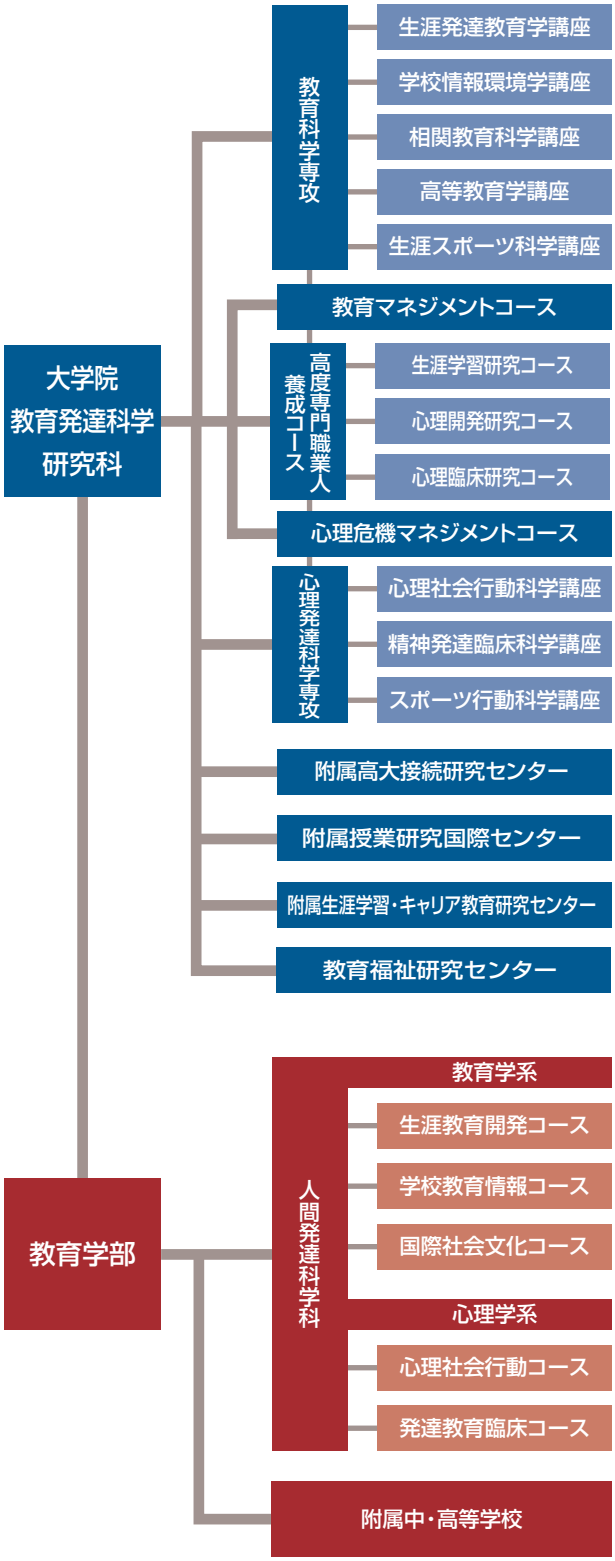
この目的を遂行する上での本研究科の著しい特徴は、基盤的理論研究分野から教育や臨床の応用的分野にいたる実践的研究に取り組んでいることです。本研究科は、教育科学と心理発達科学の2専攻からなり、教育科学専攻に5講座（生涯発達教育学、学校情報環境学、相関教育科学、高等教育学、生涯スポーツ科学）、心理発達科学専攻に3講座（心理社会行動科学、精神発達臨床科学、スポーツ行動科学）がおかれ、35の研究領域で構成されています。

本研究科の学位授与者数（令和元年度までの累計数）は、修士学位1545人、博士学位（課程博士）271人（論文博士）141人にのぼります。修了生のほとんどは、教育科学と心理発達科学またその隣接分野の学術研究者、専門技術者、実践家等として活躍しています。

困難な時代の教育学と心理発達科学の探究とその社会的役割

本研究科は、21世紀の国際化と情報化、高齢化などの現代社会の急激な変化に対応した人づくりや生涯にわたる人間形成と教育の在り方を探究する総合的、学際的研究を進めてまいりました。しかし、現在の社会を特徴づける緊急性は、私たちの教育研究のあらゆる諸相において、人間のあり方をめぐるより洗練され研ぎ澄まされた知見を要請しています。コロナ禍の緊急事態に対する緊急措置はしぶとく生き残り、常態化していくかもしれません。このニューノーマルにおいて、人間と社会に真に求められるもの、今はインビジブルな次元にあっても想像力において是非とも明示化し構築すべきものについて、みなさんとともに探究していきたいと考えます。

教育発達科学研究科長・教育学部長　松下晴彦



contents

■ 大学院教育発達科学研究科 3
Graduate School of Education and Human Development

教育科学専攻
生涯発達教育学講座 5
学校情報環境学講座 6
相関教育科学講座 7
高等教育学講座 8
生涯スポーツ科学講座 8

心理発達科学専攻
心理社会行動科学講座 9
精神発達臨床科学講座 9
スポーツ行動科学講座 10

高度専門職業人養成コース
生涯学習研究コース・心理開発研究コース・心理臨床研究コース 11

教育マネジメントコース
（教育科学専攻,博士後期課程） 11

心理危機マネジメントコース
（心理発達科学専攻,博士後期課程） 11

高大接続研究センター 13
修了生の進路／留学／専修免許状／公認心理師・臨床心理士 14

■ 教育学部 15
School of Education

学科目／カリキュラム 17

人間発達科学科／教育学系
生涯教育科学／生涯教育開発コース 19
学校教育科学／学校教育情報コース 19
国際教育文化学／国際社会文化コース 19

人間発達科学科／心理学系
心理行動科学／心理社会行動コース 20
発達臨床科学／発達教育臨床コース 20

附属中・高等学校 20
卒業生の進路/留学 21
施　設/同窓会/学生生活 23

入学試験情報/奨学金制度・授業料免除制度/留学生支援/学生相談 25
沿革/アクセス 26

NAGOYA UNIVERSITY

大学院教育発達科学研究科

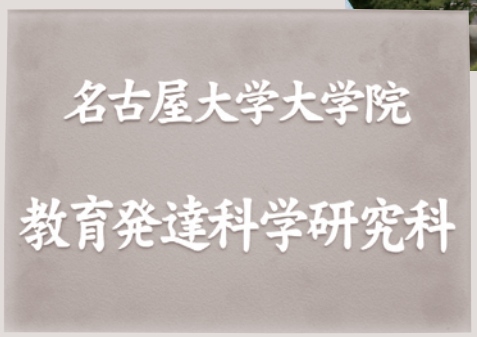
生涯にわたる、人間発達の科学を拓く

国際化、情報化、高齢化など、現代社会は急激な変化を経験しつつあります。こうした社会変化に適切に対応し、新しい時代を積極的に切り拓くことのできる主体性と創造力をもつ人づくりが重要な課題となっています。その意味で、乳幼児から高齢者まで生涯にわたる人間の発達と教育のあり方を探究する教育発達科学研究への期待は、近年ますます高まっています。そのような期待に応えるべく、教育発達科学研究科は、21世紀の地球的視野と深い人間理解、そして鋭い洞察力をベースに、全体論的・横断的教育対応や講座間の共同連携による先鋭的研究を推進する研究・教育機関です。

教育発達科学研究科には、教育科学専攻と心理発達科学専攻が設置されています。いずれも博士課程の前期課程と後期課程とに分かれています。本研究科はこれまで多くの有為な人材を育ててきましたが、現在までの修了者および単位取得満期退学者のうち約6割が、高等教育機関での教育・研究に携わっています。

これらの研究者・大学教員の養成プログラムに加えて、高度専門職業人養成コースが設けられています。このコースは、生涯学習研究、心理開発研究、心理臨床研究の三つのコースからなり、社会人、職業人に対して高度な専門的、実践的職業教育やリフレッシュ教育の機会を提供し、各種の教育・学習施設や企業などの実務界、また各種臨床分野で活躍できる人材を養成するプログラムです。また、2006年度より、教育科学専攻の博士後期課程に教育マネジメントコースを、2008年度より、心理発達科学専攻の博士後期課程に心理危機マネジメントコースを開設しています。

本研究科は、これまでの研究者・教育者養成プログラムの一層の充実をはかるとともに、ますます複雑化する社会に必要とされる英知の探究と啓発に取り組み、わが国でも比類ない教育発達科学の代表的な研究・教育機関となるよう努力を続けています。



大学院 教育発達科学研究科

教育科学専攻

生涯発達教育学講座 学校情報環境学講座 相関教育科学講座 高等教育学講座 生涯スポーツ科学講座	<前期課程・後期課程> 修士（教育学）M.A. 博士（教育学）Ph.D.
教育マネジメントコース 生涯学習マネジメント 学校教育マネジメント 高等教育マネジメント	<後期課程> 博士（教育）Ed.D.
高度専門職業人養成コース 生涯学習研究コース	<前期課程> 修士（教育）M.A.

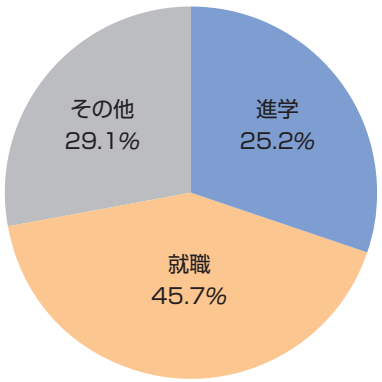
心理発達科学専攻

心理社会行動科学講座 精神発達臨床科学講座 スポーツ行動科学講座	<前期課程・後期課程> 修士（心理学）M.A. 修士（臨床心理学）M.A. 博士（心理学）Ph.D.
心理危機マネジメントコース	<後期課程> 博士（心理学）Ph.D.
高度専門職業人養成コース 心理開発研究コース 心理臨床研究コース	<前期課程> 修士（心理学）M.A. 修士（臨床心理学）M.A.

※精神発達臨床科学講座と心理臨床研究コースは、公認心理師法施行規則が定める大学院の指定科目を開講しています。また、精神発達臨床科学講座は、（財）日本臨床心理士資格認定協会から心理臨床科学領域として大学院指定制度第1種に指定されています。心理臨床研究コースは、一般募集の精神発達臨床科学講座の学生と共通の履修課程を原則としています。

※毎年6月頃に大学院説明会を開催しています。

博士前期課程修了者の進路（2018～2020年度）



n=127

教育科学専攻

生涯発達教育学講座

この講座では、学校をはじめ家庭、地域社会、職場における生活・文化・労働（技術）を通しての生涯にわたる人間形成・発達のメカニズムの究明と、それに関わるより意図的・組織的な教育システムのあり方を究明することを目的としています。特に人間形成・発達と教育を規定する文化的・社会的要因を歴史的・実証的に分析するとともに、学校内外の教育の社会的・国家組織的な機能と構造を、個人の生涯にわたる教育権保障の視点から解明していきます。

教育史

日本や海外における教育の歴史的研究を進めています。望ましい教育のあり方を展望するためには歴史に学ぶことが不可欠です。本領域では、学校という近代的なシステムの内外で繰り広げられてきた子ども・青年の教育や学びへの取り組み、それを規定した制度・思想・理念について、人びとの生活や文化、社会とのかかわりを視野に入れつつ解明することを課題としています。

● 教授：吉川卓治（名古屋大学大学院）博士（教育学）
現在の研究テーマ：近現代日本における大学と地域の関係史／教育実践の歴史／地域教育史

● 教授：江頭智宏（九州大学大学院）博士（教育学）
現在の研究テーマ：ドイツにおける新教育運動に関する研究／ナチスの教育政策に関する研究

教育行政学

子どもの学習権を中核とする国民の教育権を保障するための、教育行政のあり方を追究します。具体的には、教育行政が教育の自主性尊重及び教育の地方自治原則に基づいた教育条件整備を任務としていることを踏まえ、教育制度、教育施設設備、子どもの学習条件整備などの教育行政の実態を分析し、教育行政の構造を解明していきます。

● 教授：石井拓児（名古屋大学大学院）博士（教育学）
現在の研究テーマ：教育財政・福祉財政をめぐる法制度的研究／教育におけるアドミニストレーション研究／旧教育基本法10条をめぐる学説史研究／ニュージーランドの教育政策／学校づくり研究

社会・生涯教育学

学校教育以外の教育、すなわち家庭教育や地域社会及び職場などにおける教育のあり方の究明が主要な研究課題です。具体的には、学校外の子ども・青年、女性、高齢者、労働者、市民の学習・文化活動、社会教育施設（公民館、図書館、博物館）の諸活動などの原理・歴史的な分析及び実態調査研究などを中心に行います。特に長野県松本市などの自治体を継続的に訪ね、調査を行っています。さらに、最近ではヨーロッパやアジアにおける社会教育・生涯学習についてのフィールド研究も行っています。

● 教授：辻浩（名古屋大学大学院）教育学修士
現在の研究テーマ：子ども・若者の自立支援と教育福祉／地域における自治の力の形成と社会教育／住民との共同実践による地域関係労働者の集団的発達／高度経済成長期の生活問題と社会教育

● 准教授：河野明日香（九州大学大学院）博士（教育学）
現在の研究テーマ：旧ソ連中央アジア諸国における成人教育政策／成人教育、生涯学習の域内連携と国際ネットワークの形成／地域共同体の教育的役割と地域社会教育

技術・職業教育学

本領域は、1980年に設置された技術教育学講座を引きついだ領域で、遊びや小学校の手の労働や工作教育の諸問題、中等教育レベルの技術科教育や家庭科教育や労働教育の諸問題などを主として歴史的な分析や実態調査研究を中心におこなっています。海外では、スウェーデンを中心とする北欧の国々やロシア、バルト3国を対象とした、歴史的分析やフィールドワークなどをおこなっています。また、障がい児（者）教育における作業教育や生産教育などを対象として、フィールドワークや実態調査研究もおこなっています。

学校情報環境学講座

現代社会は、高度情報科学技術の発達と普及によって進展してきました。この講座では、情報社会、知識基盤社会の特質を、学校を中心とした教育課程内部の問題として捉え、情報機器・情報ネットワークとその組織化および環境の面から、学校教育の過程や全体構造を究明することを目的としています。附属学校をはじめその他の学校における学校生活の参与観察やフィールドスタディによる質的研究、事例分析、授業分析などのさまざまな実証研究に基づいて、教育課程の構造を理論的に究明していきます。

学校情報学

学校情報学は、コンピュータやインターネットなどの情報テクノロジーの教育利用を研究する領域です。しかし情報テクノロジーはテクノロジーの一つであり、教育における多様なテクノロジー利用についても広く研究しています。また、その際に採用している質的研究方法論についても研究し、オリジナルな質的データ分析手法も開発しており、多様な領域で幅広く採用されています。現在、大学院生として、このような質的研究方法を用いた研究を行っている医師、看護師、薬剤師、臨床心理士などの医療系専門職も在籍しており、特色ある領域になっています。

カリキュラム学

カリキュラム学の研究は、以下の2つの事柄を主な目的にしている。一つ目は、教育現象の主として内容面を社会・政治・経済・歴史・文化等との関係において分析することである。二つ目は、学校教育における教育課程の構造と実際のありようを実践に即して読み解くことである。授業においては、そのような研究を行うための基礎的能力を養うことを重視しているため、受講生には、教育学のみならず関連諸学の学問的ツールの習得に関心を持って参加することが期待される。

● 教授：渡邊雅子（コロンビア大学大学院）Ph.D.（社会学）
現在の研究テーマ：思考表現スタイルの日米仏比較／国語と歴史教育の国際比較／大学入試の国際比較

教育方法学

本領域では、授業分析によって、教育方法の根拠となるべく授業理論を構築することを研究の中心にしている。欧米の教授学や近接領域の学習科学の成果に学びながら、現実の授業を観察・記録し、これを様々な手法によって分析することを通して、子どもの学習・発達のあり方や、それらの可能性を探っている。研究テーマは、問題解決学習、協同学習、表現活動、イメージ、コミュニケーション、環境教育、情報教育、キャリア教育、異文化理解教育、食農教育、コミュニティとしての教室、各教科の学習、教科外の学習など、多岐にわたっている。国内のみならず、海外（ドイツ、アメリカ、カナダ、中国、香港、シンガポール、イランなど）の授業も研究対象としている。さらに、授業分析の研究方法論を教師教育や学校経営に適用し、各学校の授業研究の活性化と、教員相互が専門性を高め合う組織づくりに取り組んでいる。

● 教授：柴田好章（名古屋大学大学院）博士（教育学）
現在の研究テーマ：授業分析の方法に関する研究／授業におけるコミュニケーションの分析／情報教育に関する研究

● 准教授：坂本将暢（名古屋大学大学院）博士（教育学）
現在の研究テーマ：教師の黒板前の動きに関する研究／板書の構成および機能に関する研究／授業の発言記録と映像記録を用いた分析システムの開発

教育経営学

学校をはじめとする各種の教育機関において、憲法・教育基本法（昭和22年法律第25号）に則り、教育目的を達成していくためには、どのような公教育の組織・運営の在り方が必要なのか、“教育におけるadministration”の固有性を探究する学問分野です。公教育経営の構造と実態の分析をはじめとして、学校・教職員の在り方や父母・住民の公教育への関わりなど、「学校自治」を超えて広く「地域教育経営」の構造的な究明を進めることによって、今日の問題状況を打開していく方法を理論的・実践的に検討していきます。

● 教授：南部初世（京都大学大学院）教育学修士
現在の研究テーマ：日本型教育経営システム／教育経営改革の日独比較／地域教育経営

教師教育学

生涯にわたる専門職としての教師の発達と、それを支える教師教育のあり方を専門的・学術的に研究する。高度な専門職としての教師、およびその育成にあたる教師教育者に必要とされる資質能力の内実を解明し、教師教育に資する基礎的知見を創出する。

● 教授：サルカール　アラニ　モハメッド　レザ（名古屋大学大学院）博士（教育学）
現在の研究テーマ：授業実践学の文化的基底に関する比較開発研究/授業研究を基礎とした教師の発達に関する研究

教育科学専攻

相関教育科学講座

教育学研究の理論的基盤を研究する領域です。複雑化する現代社会における教育現象を解明し、その背後にある教育の構造・機能を、哲学、人類学、社会学、経済学、比較論を中心とする研究方法により究明します。特に、現代における人間形成、教育の文化的基盤、教育と社会変動、教育と経済の関連、国際社会における教育のあり方などを総合的に究明していきます。

人間形成学

人間形成学の研究領域では、人間にとって生きるとはどのような意味をもっているのかという問いを中心にして、さまざまな教育現象の意義を検討し、そのような試みのなかで新たな人間像・人間関係・共同体のあり方などを探究することに取り組んでいます。本領域での教育研究は、過去から現在にいたるまでの人間形成や社会構築に関する諸理論を考察・解明することによって、今後の教育のあり方を考えるための理論的枠組みを再構築し、創造していくことをめざしています。

● 教授：松下晴彦（名古屋大学大学院）博士（教育学）
現在の研究テーマ：19世紀米国のヘーゲル主義および初期・中期のデューイ思想研究／20世紀以降の米国の政治・経済・文化・教育思潮に関する研究／高等教育における専門職プログラムおよび研究方法のあり方に関する研究

● 准教授：生澤繁樹（名古屋大学大学院）博士（教育学）
現在の研究テーマ：英米教育哲学とコミュニタリアニズムの公共哲学／ジョン・デューイと進歩主義の教育思想史／プラグマティズムと社会的探究としての教育理論／デモクラシー・シティズンシップ・社会正義の教育実践とカリキュラム

教育人類学

多様な文化的土壌に根づく人間形成・価値形成のあり方や、その基底にある人間観・教育観を人類学的手法によって解明する分野です。比較教育学の隣接領域として、教育を広い文化的文脈において捉え、複雑で多様な意味づけのなかで育つ人間の総体的かつ動態的理解を目指す、将来的な可能性をもった領域です。研究の過程では、特にフィールドワークが重視されます。

● 教授：服部美奈（名古屋大学大学院）博士（教育学）
現在の研究テーマ：東南アジア（インドネシア）における信仰（イスラーム）と価値形成／イスラーム教育思想／東南アジア海域世界のイスラームネットワーク／発展途上国における教育の発展と支援

教育社会学

教育のしくみを社会学的に明らかにする研究分野です。人間の発達や成長の道筋を、家族・学校（幼稚園から大学まで）・仲間集団・地域社会・マスコミなどの諸環境や諸制度のなかに位置づけて、客観的に解明します。理論的追究と社会調査・統計調査などの実証的追究の両方法を駆使しながら、身近な教育現実にアプローチする際の複眼的で洞察力のある目を培っていきます。

● 教授：伊藤彰浩（名古屋大学大学院）博士（教育学）
現在の研究テーマ：近代日本の高等教育に関する歴史社会学的研究／量的拡張期の高等教育政策に関する基礎的研究

● 教授：内田良（名古屋大学大学院）博士（教育学）
現在の研究テーマ：学校事故の「リスク」分析／スポーツ傷害／学校の働き方改革／大学図書館に関する社会学的研究

比較教育学

日本および諸外国（地域）の教育を、それぞれの社会の歴史・文化、政治・経済と関連させながら比較分析し、その教育構造について解明します。単なる外国教育事情の紹介に終わることなく、先行研究（文献）をふまえた現地調査（フィールド・ワーク）を重視した研究をすすめています。

● 准教授：松本麻人（名古屋大学大学院）博士（教育学）
現在の研究テーマ：東アジアにおける高等教育の形成と展開に関する研究／韓国の教育制度・政策に関する研究／キリスト教主義教育の歴史

大学論

現代社会において、大学は科学技術を含むあらゆる知識の生産・流通・消費の拠点として不可欠の存在となっています。大学や知識について、その社会的機能、内部構造、社会的基盤、社会的規定性に関する基礎的な研究を、社会学、経済学、歴史学、科学論、国際比較などをベースに行い、大学とはいったい何なのか、知識とはいったい何なのかを探ります。

関連分野（グローバル教育論）

自国・自民族中心の思考を脱し、地球市民的教育の観点から、教育内容・方法の再構築を目指す研究領域です。特に、学校教育における異文化理解、グローバル・マインドの育成に重点を置いた研究を行います。（主として外国人客員教授が担当。）

高等教育学講座
（協力講座）

高等教育学

高等教育の基本的機能である教育・研究・社会的サービスについての研究を行っています。大学における教授・学習支援教材の開発、知識基盤社会における大学・大学院の役割（高度職業人教育、大学と企業との連携など）に関する研究などを通じて、今後の高等教育の課題を探究していきます。

● 教授：加藤真紀（東北大学大学院）博士（情報科学）
現在の研究テーマ：高等教育の学びの在り方／高等教育の機会と効果／留学／大学教員のキャリア

● 准教授：丸山和昭（東北大学大学院）博士（教育学）
現在の研究テーマ：国家資格の形成過程／対人援助職の専門職化過程／大学教員のキャリアと能力形成

● 准教授：安部有紀子（広島大学大学院）博士（教育学）
現在の研究テーマ：日米の学生支援／高等教育マネジメント／学習者中心主義の大学教育

生涯スポーツ科学講座
（協力講座）

生涯体力科学

人の一生における様々な身体活動に注目しながら、身体運動と体力・健康に関する諸問題について理論的・実践的研究を進めていきます。

● 教授：蛭田秀一（東京大学大学院）教育学修士
現在の研究テーマ：各種作業における重量負担と姿勢負担／スポーツ種目の競技特性

健康運動科学

健康増進のための体力科学および運動指導法に関する調査・研究と各種プログラム開発および地域ネットワークの構築を進めています。

● 准教授：田中憲子（東京大学大学院）博士（学術）
現在の研究テーマ：体幹部における骨格筋や脂肪の分布／骨格筋の量や質と身体活動・運動の量との関連

スポーツ教育学

学校における体育（教科と教科外）や生涯にわたるスポーツやレジャー活動について、教育学、社会 学、経済学等の幅広い知見を活用し、理論的、歴史的、実証的研究を行っています。またスポーツ教育の内容・方法や制度の研究を進めるとともに、スポーツやレジャー活動について国内外の比較を行い、学校体育、スポーツ・レジャー活動の課題を分析・研究しています。

スポーツマネジメント

ハイパフォーマンス・スポーツの戦略的構造を考える実践的な領域です。組織・個人が身体技術を駆使していかに競争優位な局面を展開するかのパフォーマンス情報とその背景にある社会・文化的側面も視野に入れた存立構造を研究しています。

● 教授：佐々木康（筑波大学大学院）博士（体育学）
現在の研究テーマ：競技スポーツ組織の自己組織化／ゲーム・技術情報論

スポーツバイオメカニクス

ヒトの身体の動きを様々な方法で記録し、記録された動きを分析することにより、身体運動における合理的な動きを探求したり、スポーツにおいてより高い競技成績を上げるための運動技術や力・パワー発揮能力等について調べていきます。対象とする身体運動はスポーツ競技における身体の動きだけでなく、子供から高齢者に至る日常生活での基本的な活動動作を含んでいます。

● 准教授：水野 貴正（中京大学大学院）博士（体育学）
現在の研究テーマ：身体運動に対する筋や腱の適応に関する研究

スポーツ生理学

人がヒトである所以は「適応」することです。「教育」は適応を利用した人間活動であり、その適応過程が「発達」と言えますが、身体を動かす「運動」も、その適応力を利用した基本的人間活動です。本講座では運動＝スポーツをすることによってヒトの神経・筋機能や呼吸・循環機能などの身体諸機能がどのように適応するかを、様々な実験手法を用いて解き明かしていきます。

● 教授：秋間広（筑波大学大学院）博士（体育科学）
現在の研究テーマ：運動時の神経筋活動／筋内脂肪の定量化とそれに影響する因子に関する研究

心理発達科学専攻

心理社会行動科学講座

人間の認知的機能と人格的特性とを、社会的文化的文脈の中で、科学的・数量的に解明する領域です。主に、実験・調査・観察といった客観的方法によって得られるデータに基づいて、人間の心理の一般的・普遍的法則を明らかにしていきます。具体的には、人間の学習や問題解決、情意的プロセス対人関係等を対象に研究を進めるとともに、そうした研究活動を支援するための計量的、実験的方法の開発を行っています。

計量心理学

人間の心理特性や心理プロセスについて、その個体差を計量し、得られたデータから合理的な解釈や推論を導くために必要な、分析手法や理論について研究する領域です。

● 教授：石井秀宗（東京大学大学院）博士（教育学）
現在の研究テーマ：心理・教育等の領域におけるデータ科学に関する研究／心理特性や能力を測定・評価する方法に関する研究／学校等におけるテストや評価に関する研究

● 准教授：光永悠彦（東京工業大学大学院）博士（学術）
現在の研究テーマ：大規模テストの実践におけるテスト理論の応用可能性／項目反応理論に基づく等化方法に関する研究／パフォーマンスを測定するためのテスト実施方法の開発

認知心理学

記憶や問題解決など、人間の認知機能のメカニズムを解明しようとする研究領域です。人工知能、神経科学、言語学などの関連諸分野と連係しながら研究が進められています。

教授・学習心理学

人々の学習活動を支援するための、有効かつ適切な方法について研究するとともに、社会の潜在的教育力をも明らかにすることを目指す研究領域です。

● 教授：中谷素之（名古屋大学大学院）博士（心理学）
現在の研究テーマ：教室場面における学業的・社会的目標の促進／ピア・ラーニングと動機づけプロセスの解明／自己調整学習と動機づけの機能

パーソナリティ心理学

パーソナリティの発達と形成、人間を学習や行動へと駆り立てる動機づけや感情のメカニズム等、人間の情意的側面を解明する研究領域です。

● 准教授：山形伸二（東京大学大学院）博士（学術）
現在の研究テーマ：パーソナリティの発達に見られる遺伝と環境の影響／批判的思考力の測定・教育

● 准教授：溝川藍（京都大学大学院）博士（教育学）
現在の研究テーマ：子どもの社会性の発達と養育環境／感情認知・心の理論の文化差

社会心理学

人間の社会的行動について研究する分野です。主に、対人認知と対人行動、集団のダイナミックスが個人に及ぼす影響、社会的態度とその形成・変容等を扱う研究領域です。

● 教授：高井次郎（カリフォルニア大学）Ph.D.
現在の研究テーマ：対人コミュニケーション方略の比較文化的研究／日本的対人コンピテンス／自己認識の多面性

● 准教授：五十嵐祐（名古屋大学大学院）博士（心理学）
現在の研究テーマ：社会的ネットワーク構造のダイナミックスに関する研究／社会的ネットワーク構造の認知過程に関する研究

精神発達臨床科学講座

人間の誕生から死に至るまでの生涯発達を縦軸に、家族・学校・地域社会・職場といった生活空間の広がりを横軸にとった平面から、生涯発達のプロセスを解明するとともに、発達の臨床的援助の在り方について研究する領域です。また、人間の内的側面を明らかにするための、心理検査法・心理面接法等の開発を行っています。

生涯発達心理学

生涯にわたる人間発達の道筋を心理的観点から記述し、発達メカニズムの解明を目指す、発達臨床科学のひとつの基礎をなす研究領域です。

● 教授：平石賢二（名古屋大学大学院）博士（教育心理学）
現在の研究テーマ：思春期・青年期の人格形成と適応／思春期・青年期の親子関係、子育て支援、親の発達／包括的スクールカウンセリングプログラム

精神発達臨床科学講座

臨床心理学

さまざまな人間の心理的諸問題のメカニズムを解明し、それを通じて個々の事例を査定し援助するための技法を開発する発達臨床科学のもうひとつの基礎領域です。

● 教授：金井篤子（名古屋大学大学院）博士（教育心理学）
現在の研究テーマ：働く人のキャリアとメンタルヘルスに関する研究／キャリア・カウンセリング／ワーク・ライフ・バランス

● 教授：河野荘子（名古屋大学大学院）博士（教育学）
現在の研究テーマ：思春期青年期の心理面接／非行・犯罪者の共感性やセルフコントロール／非行や犯罪からの立ち直りのプロセス研究

● 准教授：田附紘平（京都大学大学院）博士（教育学）
現在の研究テーマ：心理療法におけるクライエントとセラピストの体験／心理療法と愛着理論の接点／心理アセスメント／現代の心の様相（発達障害やインターネット上のコミュニケーション）

家族心理学

家族内・家族間に発生する諸問題のメカニズムの解明や、家族をめぐる問題への臨床的援助の方法を研究する領域です。臨床心理査定を含め事例研究についても扱います。

● 教授：永田雅子（名古屋大学大学院）博士（心理学）
現在の研究テーマ：周産期医療におけるこころのケア／発達障害およびハイリスク児と親への早期介入／妊娠中から乳幼児期までの地域支援の在り方の検討

● 教授：金子一史（名古屋大学大学院）博士（教育学）
現在の研究テーマ：産後愛着障害に対する地域での支援方法／児童・青年期のメンタルヘルス

● 准教授：狐塚貴博（東北大学大学院）博士（教育学）
現在の研究テーマ：家族関係と子どもの心理臨床的問題と支援／家族療法の理論と実践／心理危機に関する理論と実践

学校心理学

教育現場における児童・生徒・学生の心理的問題の解明と支援のあり方を研究する領域です。また心の健康な発達促進や予防的観点からの心理教育プログラムの開発など一次的心理援助についても研究する領域です。

● 教授：鈴木健一（広島大学大学院）博士（心理学）
現在の研究テーマ：学生相談における対人関係／精神分析の援用／学生相談における夢分析

● 准教授：杉岡正典（広島大学大学院）博士（心理学）
現在の研究テーマ：学生相談における自殺予防、青年期問題へのコミュニティ心理学的アプローチ

● 准教授：野村あすか（名古屋大学大学院）博士（心理学）
現在の研究テーマ：小・中学生の心理的特徴のアセスメント／特別なニーズのある子どもの主観的幸福感／学校における心理支援

スポーツ行動科学講座
（協力講座）

スポーツ心理学

スポーツ行動に関わる諸問題を心理学的に解明する学問です。特に、スポーツ経験と自己成長、実力発揮への心理サポートなどの理論的および実践的研究を行っています。

● 教授：竹之内隆志（筑波大学大学院）博士（医学）
現在の研究テーマ：スポーツ経験がパーソナリティ発達に及ぼす影響／スポーツ選手の心理臨床的問題と援助

運動学習科学

人間の身体運動技能の獲得を、その理論的基盤としての運動制御研究と、実践場面への適用としての運動指導研究を有機的に結びつけながら研究していきます。そこでは、従来の情報処理理論に基づく運動学習研究のオルタナティブとして力学系理論あるいは複雑系理論に基づく新たな運動学習科学の方向性を模索していきます。

● 教授：山本裕二（筑波大学大学院）博士（体育科学）
現在の研究テーマ：複雑系としての身体運動／対人・集団スポーツのダイナミクス

● 准教授：横山慶子（名古屋大学大学院）博士（心理学）
現在の研究テーマ：対人協調技能／学習環境のデザイン

高度専門職業人養成コース・教育マネジメントコース・心理危機マネジメントコース

高度専門職業人養成コース（修士学位プログラム）

現代社会は、その情報化・高度化により、組織、体制、価値などのボーダーレス化が進行し、ますますより高い質の人材が求められています。特に、生涯学習社会の到来や各種の社会病理現象への対応、教育界・産業界の複雑化と高度化に応えていくために、高度な専門知識・資格や高い一般的教養を備えた人材の養成が、いまや急務の課題となっています。この社会的要請に応えていくために、教育発達科学研究科では、2000年度より高度専門職業人養成コースを新たに開設し、スタートさせました。

高度専門職業人養成コースは、生涯学習研究、心理開発研究、心理臨床研究の三つのコースからなり、それぞれのコースにおいて、在職、および一般社会人のための高度な理論的、実践的専門教育の機会を提供し、各種の教育・学習施設や企業などの実務界、また各種臨床分野で活躍できる高度な専門的資質を有する指導者を養成するプログラムです。本コースの修了後は、修士号が授与されます。

教育マネジメントコース（博士学位プログラム）

さらに高度な知識を学術的な探究をベースに修得できるように、教育科学専攻では2006年度より、教育マネジメントコースをスタートさせました。

本コースは、生涯学習マネジメント、学校教育マネジメント、高等教育マネジメントの3領域からなり、主として研究・教育機関、企業等での実践・経験をもつ社会人、また将来、応用的な研究遂行能力を要する高度な専門家をめざす学生（社会人経験をもつものに限る）を受け入れ、教育学、教育科学に関する基礎理論をベースにしながら、実践的・実務的視点を重視した高度で応用的な研究遂行能力と学識を有する専門家を育成することを目標としています。

本コースの修了者には、博士（教育）の学位（Doctor of Education（Ed.D.））が授与されます。

心理危機マネジメントコース（博士学位プログラム）

心理危機マネジメントコースでは、行政、企業、教育現場などで心の問題や心理危機に関わる仕事に携わっている現職の社会人を対象に、臨床心理学や社会心理学、発達心理学、認知心理学、パーソナリティ心理学、計量心理学を初め、経営組織学、マネジメント学などの幅広い学問領域を背景にして、心理危機へ組織的・包括的にアプローチできる研究者ー実践家を養成することを目指しています。

本コースに2年以上在学して所定の単位を修得し、研究指導を受けて学位論文を提出した者は、学位論文審査に合格することによって博士（心理学）を取得することができます。

大学院教育発達科学研究科

教育科学専攻　高大接続研究センター　心理発達科学専攻

高度専門職業人養成コース

生涯学習研究コース

○生涯学習開発分野
○学校科学臨床分野
○高等教育マネジメント分野
○生涯スポーツ科学分野

研究調査指導Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ
生涯学習開発講義　学校科学臨床講義　高等教育マネジメント講義

■生涯学習開発科目

教育社会史Ⅰ	社会教育学Ⅰ
教育社会史Ⅱ	社会教育学Ⅱ
教育社会史Ⅲ	社会教育学Ⅲ
教育社会史Ⅳ	技術教育学Ⅰ
教育行政学Ⅰ	技術教育学Ⅱ
教育行政学Ⅱ	職業教育学Ⅰ
教育行政学Ⅲ	職業教育学Ⅱ

■学校科学臨床科目

学校情報学Ⅰ	カリキュラム論Ⅳ	教育経営学Ⅲ
学校情報学Ⅱ	教育方法学Ⅰ	教師教育学Ⅰ
学校情報学Ⅱ	教育方法学Ⅱ	教師教育学Ⅱ
学校情報学Ⅳ	教育方法学Ⅲ	学校臨床社会学
カリキュラム論Ⅰ	教育方法臨床研究実習	
カリキュラム論Ⅱ	教育経営学Ⅰ	
カリキュラム論Ⅲ	教育経営学Ⅱ	

■高等教育マネジメント科目

高等教育基礎論Ⅰ	高等教育経営論	比較高等教育論Ⅱ
高等教育基礎論Ⅱ	高等教育内容論	高等教育マネジメント ーフィールド･スタディー
高等教育基礎論Ⅲ	高等教育財政論	
高等教育政策論	比較高等教育論Ⅰ	高等教育マネジメント講義

■生涯スポーツ科学科目

生涯体力科学Ⅰ	スポーツ教育学Ⅱ	スポーツ生理学Ⅰ
生涯体力科学Ⅱ	スポーツマネジメントⅠ	スポーツ生理学Ⅱ
健康運動科学Ⅰ	スポーツバイオメカニクスⅠ	スポーツ生理学Ⅲ
スポーツ教育学Ⅰ	スポーツバイオメカニクスⅡ	

教育マネジメントコース

○生涯学習マネジメント
○学校教育マネジメント
○高等教育マネジメント

リサーチスキル	教育マネジメント研究特論Ⅰ	教育マネジメント研究特論Ⅲ
インターンシップ	教育マネジメント研究特論Ⅱ	

心理開発研究コース　心理臨床研究コース

研究指導Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ,Ⅳ

心理学研究法Ⅰ	社会心理学Ⅰ
心理学研究法Ⅱ	社会心理学Ⅱ
計量心理学Ⅰ	社会心理学Ⅲ
計量心理学Ⅱ	社会心理学Ⅳ
計量心理学Ⅲ	心理社会行動科学研究実習
計量心理学Ⅳ	スポーツ心理学Ⅰ
認知心理学Ⅰ	スポーツ心理学Ⅱ
認知心理学Ⅱ	運動学習科学Ⅰ ー運動の制御理論と学習理論ー
認知心理学Ⅲ	運動学習科学Ⅱ ー運動制御･学習理論の 現場への応用ー
認知心理学Ⅳ	
学習心理学Ⅰ	
学習心理学Ⅱ	
学習心理学Ⅲ	
学習心理学Ⅳ	
パーソナリティ心理学Ⅰ	
パーソナリティ心理学Ⅱ	
パーソナリティ心理学Ⅲ	
パーソナリティ心理学Ⅳ	

生涯発達心理学Ⅰ	学校心理学Ⅰ
生涯発達心理学Ⅱ	学校心理学Ⅱ
臨床心理学Ⅰ	学校心理学Ⅲ
臨床心理学Ⅱ	発達精神科学Ⅰ
臨床心理学Ⅳ	心理臨床実習Ⅰ
臨床心理学Ⅴ	心理臨床実習Ⅱ
臨床心理学Ⅵ	心理臨床実習Ⅲ
臨床心理学Ⅶ	心理臨床実習Ⅳ
臨床心理学Ⅷ	心理臨床実習Ⅴ
家族心理学Ⅰ	心理臨床実習Ⅵ
家族心理学Ⅱ	

心理危機マネジメントコース

事例研究Ⅰ･Ⅱ
心理危機マネジメント実習Ⅰ･Ⅱ

※上表は、開講科目の全てではなく、抜粋したものです。

高度専門職業人養成コース

①生涯学習研究コース（昼夜開講）

大学等高等教育機関、学校等教育機関、生涯学習関連施設および企業などで教育関係職務に従事する指導的立場にある（あるいは、それをめざしている）在職の社会人（教員、職員）を対象に、高度な理論的・実践的専門教育の機会を提供し、管理・経営・マネジメントなどに関わる高度な専門的資質と能力をもった指導者を養成します。

プログラムは、生涯学習開発、学校科学臨床、高等教育マネジメント、生涯スポーツ科学の4分野から構成されており、いずれも昼夜開講です。受講生は各自の目標と関心に従って、自由に選択受講することができます。

● 生涯学習開発分野

学校をはじめ家庭、地域社会、職場における生活・文化・労働（技術）を通しての生涯にわたる人間形成・発達のメカニズムの究明と、それに関わるより意図的・組織的な教育システムのあり方を究明することを目的としています。特に人間形成・発達と教育を規定する文化的・社会的要因を歴史的・実証的に分析するとともに、学校内外の教育の社会的・国家組織的な機能と構造を個人の生涯にわたる教育権保障の視点から解明することにより、生涯にわたる人間形成のメカニズムを理論的に解明できる高度な資質をもった高度職業人の育成を目指しています。

● 学校科学臨床分野

高度情報化社会のもとで急速に変貌する学校教育の諸問題や、学習環境上の課題に直面している教育関係者を主な対象として、フィールドワークや授業分析をはじめ、学校保健を含む教育科学の多様な臨床的・理論的研究の方法を習得した上で、教育過程の構造的究明に求められる高度な学識を養うことを目的としています。

● 高等教育マネジメント分野

少子化・高齢化社会における高等教育改革の大きなうねりの中で、今後ますます高等教育マネジメントの専門化が求められてきます。この分野では、高等教育に携わる職業人はもちろん、あらゆる意味で高等教育マネジメントとその関連領域に関わっている人を対象に、より高度な理論的・実践的専門教育を提供し、高等教育の国際化とユニヴァーサル化の時代における高度な専門性を身につけた指導者を養成することを目的としています。フィールド・スタディでは、国内外の高等教育機関（大学等）への訪問・調査を予定しています。

● 生涯スポーツ科学分野

科学技術や情報技術の発展によって、私たちの生活はより便利に豊かになってきましたが、同時に、運動不足をはじめとする身体教育やスポーツ科学に関連づけられる諸問題も拡大・深刻化し、その対策が求められています。この分野では、健康・体力、身体運動、スポーツ教育、スポーツマネジメントに関連する課題に直面している社会人を対象に専門教育をおこない、課題解決にむけた高度な専門性を身につけた職業人の育成を目的としています。

②心理開発研究コース（昼夜開講）

● 心理行動科学分野

このコースでは、心理学を、人間に起因する種々の問題を解決するためのツール・ボックスととらえ、その知識・技術を習得した高度職業人を養成していきます。民間企業（人事管理部門、製品開発、マーケッティング部門）および各種研究所、教育研究機関、各種団体などにおいて「開発研究（research for development）」に一定の実績をもっている社会人を対象に、組織内の人間に起因する諸問題を解決する高度な知識・技術を有する人材を養成するプログラムです。

● スポーツ行動科学分野

スポーツや身体運動、あるいは体育などにおける心と身体の問題に対して、スポーツ心理学、体育心理学、運動学習科学などの知識や技術を習得し、実践で活用できるような高度職業人を養成するコースです。これまでのスポーツ経験や指導経験を基に、明確な問題意識を持っている社会人を対象として、高度な専門性と能力を持ったスポーツや体育指導者などを養成することを目的としています。

③心理臨床開発コース

近年、学校、職場、家庭、地域などの領域で、さまざまな「こころ」の問題が顕在化しています。そのため、これらの問題に対応する「こころの専門家」の養成が急務となっています。このコースは、こうした時代的要請に対応するため、心理的援助に関する高度の専門知識と技術を有する専門職業人を養成するプログラムです。

高大接続研究センター

高大接続研究センターは、2015年度に新たに設置されました。教育学部附属中学校・高等学校と連携して、高大接続に関する研究及び開発を行うことを目的としています。

センターでは、高大接続教育に関する研究、高大接続入試に関する研究、中等教育に関する研究、新たな大学入学者選抜の開発、高大接続に関する事業の実施など、新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けて、さまざまな取り組みを進めています。

修了生の進路/留学/専修免許状/公認心理師・臨床心理士

修了生の進路

教育発達科学研究科の修了者は、高度な技能と幅広い知識を有する専門家としてさまざまな分野で活躍し、また社会に貢献しています。大学などの研究機関において、研究者・教育者の道を歩む者はもちろん、専修免許を取得して教壇に立つ者、公認心理師や臨床心理士の資格を取得しカウンセラーとして活躍する者、官公庁で公務員として行政サービスに携わる者、その他各種の教育・学習施設や企業などの実務界で活躍する者など、本研究科で培った専門的・実際的な技能を十分に発揮して広く社会に貢献する人材を多方面に輩出しています。

● 大学院修了者・中退者の主な就職先（過去数年）

【研究機関】

<国公立大学> 愛知県立大学、愛知教育大学、秋田大学、茨城大学、お茶の水女子大学、鹿児島大学、岐阜大学、京都大学、東京大学、静岡大学、名古屋大学、名古屋市立大学、鳴門教育大学、広島大学、北海道大学、三重大学

<私立大学> 愛知大学、愛知医科大学、愛知学院大学、愛知学泉大学、愛知淑徳大学、岡崎女子大学、小田原短期大学、関西大学、岐阜聖徳学園大学、岐阜女子大学、金城学院大学、甲南大学、国学院大学、椙山女学園大学、聖隷クリストファー大学、中京大学、中部大学、東海学院大学、東海学園大学、同朋大学、徳島文理大学、名古屋学芸大学、名古屋経済大学、名古屋女子大学、南山大学、日本福祉大学、人間環境大学、明治大学

<外国の大学> チッタゴン大学

【企業等】

アクセンチュア株式会社、カウンセリングストリート株式会社、株式会社エイジェック、株式会社オプト、株式会社KDDI総合研究所、株式会社シーエーシー、株式会社dessert company、株式会社ベネッセホールディング、札幌商工会議所、三甲株式会社、住友不動産販売株式会社、ソニーグローバルマニュファクチャリング&オペレーションズ株式会社、デトロイトトーマツコンサルティング、東京書籍株式会社、日本放送協会（NHK）、 日立システムズ株式会社、ニプロ株式会社、富士ソフト株式会社、まんてんホールディング、 など

【行政機関】

愛知県庁、愛知県児童相談所、家庭裁判所、科学警察研究所、岐阜県庁、岐阜市役所、岐阜県教育委員会、桑名市役所、津市役所、独立行政法人労働者健康安全機構、豊田市教育委員会青少年相談センター、豊中市教育委員会、豊橋市こども若者総合相談支援センター、名古屋市役所、名古屋市児童相談所、名古屋少年鑑別所、名古屋市中央療育センター、名古屋市子ども応援委員会、福井県児童相談所、法務省など

【医療機関】

愛知医科大学病院、愛知県青い鳥医療療育センター、愛知県医療療育総合センター中央病院、愛知県精神医療センター、安城更生病院、医療法人山水会香椎療養所、大垣市民病院、楓の丘子どもと女性のクリニック、聖明病院、つづじが丘こどもクリニック、ともこころのクリニック、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院、ファミリーメンタルクリニック、南知多病院、リエゾンメディカル丸の内など

【教育・福祉・司法機関等】

愛厚ならわ学園、学校法人桃山学院、学校法人高野山学園、学校法人東邦学園、株式会社うすい学園、日本工学院専門学校、乳児院ほだか、社会法人小鳩会、世田谷ホッとこどもサポートセンター、文京学院大学文京幼稚園など

留　学

本研究科は、海外から多くの留学生を迎えていますが、本研究科より海外へと赴き現地で研鑽を積む学生も増えてきています。国際的な幅広い視野のなかで、フィールドワークやケーススタディを行うことはもちろん、諸外国の研究機関において自らの学術的探究の姿勢と方法を深めることは、単に学問的に意義があるだけでなく、国際化が加速的に進展する現代社会においては、かけがえのない貴重な体験となるでしょう。これまでの留学先は、例えばアジア各国、カナダ、アメリカ合衆国、ブラジル、ヨーロッパ各国となっています。（p.22も参照してください）。

専修免許状

前期課程修了者は、中学校教諭および高等学校教諭の「専修免許状」を取得することができます。教育発達科学研究科においては、中学校「社会科」および高等学校「地理歴史」「公民」について単位が認定されます。

公認心理師・臨床心理士（公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会）

心理発達科学専攻のうち、一般専攻の精神発達臨床科学講座前期課程および高度専門職業人養成コースの心理臨床研究コースは、公認心理師法施行規則が定める大学院の指定科目を開講しています。また、精神発達臨床科学講座は、（財）日本臨床心理士資格認定協会から心理臨床科学領域として大学院指定制度第1種に指定されています。心理臨床研究コースは、一般募集の精神発達臨床科学講座の学生と共通の履修課程を原則としています。

NAGOYA UNIVERSITY

教育学部

生涯にわたる、人間発達の科学を拓く

人間形成の科学を多彩なコースとカリキュラムで少人数教育
熱意溢れる学生を歓迎する

現代ほど、人間の発達・成長をめぐって、困難な問題が出現した時代はありません。

本学部は人間の発達・学習・社会化など「人間形成」に関わるさまざまな問題を、いろいろな観点から、理論的・実践的に学ぶことを目的とする学部です。

本学部における研究領域は、小学校から大学にいたる教育の諸問題をはじめ、家庭における子どもの養育・しつけの問題から青少年のカウンセリング、職場における人間関係、国際化と教育・文化の諸問題、生涯にわたる人間形成の問題など、人間社会の全般にわたっています。こうした広範な課題を、個人的視野から国際的視野までいろいろな角度から取り組み、それらの研究成果を総合しながら人間形成に役立てようとする実践研究が行われています。

教育学部は、入学定員65名の比較的小規模な学部です。この学生数に対して、専任の教員は40名を擁し、さらに外部からの兼任教員も加わって、5つのコースを準備し、斬新なカリキュラムを実施しています。

ますます国際化し、情報化する現代社会において、創造性を生かし、積極的に取り組み、社会をリードできる人材を養成するために、少人数によるフェイス・トゥ・フェイス教育がそれぞれのコースにおいて行われています。教員と学生のコミュニケーションがうまくいっていることも本学部の特徴です。

教育学部

人間発達科学科

教育学系

生涯教育開発コース
○教育社会史　○教育行政学
○社会教育学　○技術・職業教育学

学校教育情報コース
○教育情報学　○カリキュラム学
○教育経営学　○教育方法学
○教師発達論

国際社会文化コース
○人間形成学　○教育人類学
○教育社会学　○比較教育学
○大学論

心理学系

心理社会行動コース
○心理計量学　○学習行動学
○パーソナリティ発達学
○認知行動学　○社会行動学
○応用行動学

発達教育臨床コース
○生涯発達心理学　○発達援助臨床学
○家族発達臨床学　○学校臨床心理学
○医療臨床心理学

附属中・高等学校

カリキュラム

教育学部に入学してから卒業までに履修する授業は、全学に共通して、あるいは複数の学部にまたがって開講される全学教育科目と、基本的に教育学部生だけを対象とする学部科目に分けられます。これらは、高度な専門的能力と総合的・自主的判断力を養成するという目的に関しては一体のものですが、現在のところ、2年春学期までは主として全学教育科目を、2年秋学期以降はもっぱら学部科目を履修することになります。

全学教育科目

全学教育科目は、共通基礎科目、教養科目、分野別基礎科目から構成されます。共通基礎科目は、大学で主体的に学ぶ学習者としての核を形成する「「大学での学び」基礎論」や、少人数のセミナー形式による多面的な知的トレーニングを行う「基礎セミナー」のほか、「言語文化科目」「健康・スポーツ科学科目」「データ科学科目」に区分されます。教養科目は、異分野・異文化に開かれた態度、分野を超えた幅広い知識への関心、自己とその専門分野を相対化する視点の獲得を目的として設定され、「国際理解科目」「現代教養科目」「超学部セミナー」に区分されます。そして分野別基礎科目は、「人文・社会系基礎科目」と「自然系基礎科目」に区分されますが、教育学部は前者のみの履修となり、哲学や法学など人文・社会系の学問分野が幅広く開講されています。

学部科目ー講　義

講義は、学部全体を対象とした専門基礎科目と、5つのコースごとに開講しているコース科目に大きく分けられます。専門基礎科目は、文字通り教育学や心理学の基礎・入門にあたり、主に1～2年次で履修します。コース科目は各コースや領域の概論・概説的な講義から、高度な専門的講義に至るまで幅広く開講されています。学生は自分の所属コースの科目だけでなく、他コース科目も履修しなければなりません。

学部科目ー演　習

演習は講義と同様に、各コース・領域ごとに開講されますが、講義と比べて参加者は少人数になります。担当教員によって進め方は異なりますが、テーマに沿った文献（和書・洋書）を講読したり、研究資料を検討したり、実際に調査や実践活動をするものなどさまざまです。多くの場合、学生（個人またはグループ）の報告にもとづいて全体で討議し考察するといった形式で進められますから、参加者には積極的な姿勢が求められます。演習のなかで、卒業論文の着想を得る学生も少なくありません。

名古屋大学では、1コマ90分の授業が1日5コマ開講されています。また、授業期間は、4～9月の春学期と10～3月の秋学期に分けられます。全学教育科目は大部分春学期または秋学期だけで完結する、いわゆる半期の授業です。一方、学部科目には、春学期と秋学期にまたがって開講される通年の授業もあります。

大部分の授業では半期の受講で2単位が修得できます。卒業のためには125単位の修得が必要です。

学部開講科目（一部）

国際社会文化コース	心理学系	
	心理社会行動コース	発達教育臨床コース
国際社会文化基礎演習 国際社会文化コース演習Ⅰ·Ⅱ 国際社会文化演習Ⅰ·Ⅱ 海外教育調査研究 異文化コミュニケーション演習Ⅰ·Ⅱ 人間形成学講義Ⅰ 人間形成学講義Ⅱ 人間形成学講義Ⅲ 人間形成学講義Ⅳ 教育人類学講義Ⅰ 教育人類学講義Ⅱ 異文化間教育講義 教育社会学講義Ⅰ 教育社会学講義Ⅱ 教育社会学講義Ⅲ 教育社会学講義Ⅳ 比較教育学講義Ⅰ 比較教育学講義Ⅱ 比較教育学講義Ⅲ 国際教育交流論講義 教育経済学講義Ⅰ 教育経済学講義Ⅱ 大学論講義Ⅰ 大学論講義Ⅱ グローバル教育論講義Ⅰ グローバル教育論講義Ⅱ	心理行動科学実験演習 ●基礎実験法 ●調査·データ解析法 ●検査·測定法 ●面接法 ●課題研究 ●臨床事例研究法 ●投影法 ●上級実験法 ●観察法 ●フィールド·スタディー 心理計量学講義Ⅰ 心理計量学講義Ⅱ 心理計量学講義Ⅲ 心理計量学演習Ⅰ·Ⅱ 認知行動学講義Ⅰ 認知行動学講義Ⅱ 認知行動学講義Ⅲ 認知行動学演習Ⅰ·Ⅱ 学習行動学講義Ⅰ 学習行動学講義Ⅱ 学習行動学講義Ⅲ 学習行動学演習Ⅰ·Ⅱ パーソナリティ発達学講義Ⅰ パーソナリティ発達学講義Ⅱ パーソナリティ発達学講義Ⅲ パーソナリティ発達学演習Ⅰ·Ⅱ 社会行動学講義Ⅰ 社会行動学講義Ⅱ 社会行動学講義Ⅲ 社会行動学演習Ⅰ·Ⅱ 応用行動学講義Ⅰ 応用行動学講義Ⅱ	応用行動学講義Ⅲ 応用行動学演習Ⅰ·Ⅱ 生涯発達心理学講義Ⅰ 生涯発達心理学講義Ⅱ 生涯発達心理学講義Ⅲ 生涯発達心理学演習Ⅰ·Ⅱ 発達援助臨床学講義Ⅰ 発達援助臨床学講義Ⅱ 発達援助臨床学講義Ⅲ 発達援助臨床学演習Ⅰ·Ⅱ 家族発達臨床学講義Ⅰ 家族発達臨床学講義Ⅱ 家族発達臨床学講義Ⅲ 家族発達臨床学演習Ⅰ·Ⅱ 学校臨床心理学講義Ⅰ 学校臨床心理学講義Ⅱ 学校臨床心理学講義Ⅲ 学校臨床心理学演習Ⅰ·Ⅱ 医療臨床心理学講義Ⅰ 医療臨床心理学講義Ⅱ 医療臨床心理学講義Ⅲ 医療臨床心理学演習Ⅰ·Ⅱ
国際社会における教育と文化 （国際社会文化基礎論）	心理・教育の統計学 （心理社会行動基礎論）	人間発達の心理学 （発達教育臨床基礎論）
人間発達科学Ⅲ （国際社会文化）	人間発達科学Ⅳ （心理社会行動）	人間発達科学Ⅴ （発達教育臨床）

学部科目ー実験演習

実証的な研究方法には、講義だけでなく実際にそれらの過程を経験してみることによって初めて学びうるような側面も多くあります。心理系コースの実験演習は、そうした方法の基礎をしっかりと身につけることをねらいとしています。実験演習では、人間を対象とした研究のための広い意味での実験を経験します。たとえば「調査」では人間の意識や考えを客観的に聞き出すために工夫された諸方法を、「検査」では、心理テストの実施や結果の解釈の仕方を学びます。基礎的な実験演習4科目と課題研究が必修であるほか、上級の実験演習5科目のうちの2つが選択必修となっています。

学部科目ー教育研究実習

教育研究実習は、教育の現実に直接触れながら、実践的、体験的な学習・探究をするプログラムです。すべて短期集中的に実施されており、調査研究、フィールド·スタディー、事例研究など、教育発達科学研究としての貴重な体験をすることができます。具体的には、「地域教育調査実習」「社会・産業教育調査実習」「教育経営学実習」「教育方法実習」「海外教育調査研究」などがあります。

卒業論文

近年、卒業論文を課さない大学·学部も増えてきていますが、本学部では卒業論文のもつ意義を重視し、4年間の学修の集大成として卒業論文を課しています。また、大学院に進学する際には、卒業論文はその後の研究の出発点となるため、卒業論文がもつ意義は一層高まってくると言えます。クリアな問題意識と明晰な思考、そして精緻な調査に基づきながら、豊かな表現力を駆使して創造的で論争的な卒業論文が数多く現れることを期待します。

人間発達科学科

生涯教育開発コース

生涯にわたって人が人として生きるために

人間の教育は、家庭から始まり学校、社会を通じて、生涯にわたるものです。このコースでは、人間形成と発達の過程を規定するさまざまな文化的・社会的要因について、歴史、制度、地域社会、労働・技術などの諸相から考えていきます。具体的には、教育社会史、教育行政学、社会教育学、技術・職業教育学といった領域から、アプローチをしていきます。

学校教育情報コース

人の学ぶ楽しさと意味の探究

高度情報化の時代、学校はどのような役割を担い、どのような期待に応えていくべきなのでしょうか。このコースでは、情報化社会における学校教育の過程や構造について、実際の学校生活や学校文化について参加観察やフィールドスタディを行いながら、人が成長し、その中で意味を求めていく姿をともに考えていきます。具体的には、教育情報学、カリキュラム学、教育経営学、教育方法学、教師発達論などの領域から、アプローチをしていきます。

国際社会文化コース

異文化との出会いと自己発見のドラマ

ますます国際化とグローバル化が進展する現代社会。このコースは、異文化に出会い、異文化の人々と語り合い、相互理解を深めたり、同時に自文化を再発見し、自己を見つめ直すことを目的とするプログラムです。具体的には、人間形成学、教育人類学、教育社会学、比較教育学、大学論といった領域から、グローバルなレベルでの人間や教育の問題をいっしょに考えていきましょう。

心理社会行動コース

人間の心と行動を解き明かす

私たちは、人を、ものを、そして何よりも自分自身をどのようにとらえているのでしょうか。このコースは、人間の認知の機能や人格特性や行動について、社会的文化的文脈の中で、科学的にまた数量的に解明していこうというプログラムです。具体的には、心理計量学、学習行動学、パーソナリティ発達学、社会行動学、応用行動学などの領域から、探究していきます。

発達教育臨床コース

成長発達する人間その援助

人間の発達は、どのようなプロセスをもちどのような仕組みで可能となるのでしょうか。このコースでは、人間の成長と発達について、誕生から死に至る生涯発達の過程から、また、家族・学校・地域・職場といった生活空間の広がりの中から、探究していきます。具体的には、生涯発達心理学、発達援助臨床学、家族発達臨床学、学校臨床心理学、医療臨床心理学などの領域から、アプローチをしていきます。

附属中・高等学校

本学部は東山キャンパス内に「附属中・高等学校」を有しています。中学校は各学年2学級、高校は各学年3学級であり、国立大学附属学校唯一の併設型中高一貫校です。この学校では、少人数での特色あるきめ細かな教育により、心豊かで主体性のある人間形成を目指しています。

さまざまな点で高大連携に取り組んでおり、本学部や大学全体との密接な連携の中で、大学初年次科目「基礎セミナー」の高校生の受講、各学部の大学教員によるいくつものプロジェクトを2泊3日の合宿で行う「中津川プロジェクト」などにも取り組んでいます。

また文部科学省より、2006年～2020年度には「スーパーサイエンスハイスクール」の指定を、2015～2019年度には「スーパーグローバルハイスクール」の指定を受けました。2021年度からは新たに「ワールド・ワイド・ラーニング（WWL）コンソーシアム構築支援事業」の研究開発指定を受託し、より学際的な課題に取り組んでいます。

卒業生の進路/留学

卒業生の進路

大学には、就職のためだけに進学するのではありません。しかし、社会の求める専門的能力を身につけて、それを発揮できる職場に就職することは、きわめて望ましいことだといえます。名古屋大学教育学部の出身者は、その専門性を生かして各界で活躍しています。高校の校長や教頭の職にある人たち、国家公務員として教育行政や研究にたずさわる人たち、民間企業のさまざまな職種で活躍する人たちも多数います。副知事や教育長といった県の要職についた人もあります。また、多くの卒業生は大学院を修了後、全国の大学や研究所において、教育と研究にたずさわっています。

研究者への道

大学院教育発達科学研究科には、教育科学専攻と心理発達科学専攻の二つが設置されています。大学院生は、いずれかの専攻に所属し、指導教員の指導のもとに、将来の研究者、あるいは、高度の専門的職業を目指して研究に励んでいます。大学院は博士前期課程2年、博士後期課程3年の通算5年のコースからなっています。博士前期課程を修了し、修士論文が認められた場合は修士（教育学、教育、心理学、臨床心理学）の学位を、また、博士後期課程に2年以上在学して所定の単位を修得し、研究指導を受けて学位論文を提出した場合は、学位論文審査に合格することによって博士（教育学、教育、心理学）を取得することができます。

さまざまな資格

教育学の学士号を得ることに加えて、必要な単位をとれば、次のような免許や資格を取得することができます。

（1）教育職員免許状

教育学部では、高等学校の地理歴史科と公民科、中学校の社会科の教育職員免許状（一種）を取得できます。また、他学部の授業を履修することで、中学校及び高等学校の国語科と英語科の教育職員免許状（一種）を取得している学生もいます。大学院では専修免許状を取得するための単位を修得することができます。

（2）社会教育主事

県・市町村教育委員会の社会教育行政の専門職員として、さらに公民館（生涯学習センター）、青年の家、女性会館、文化センター、体育センターなどの施設で、専門職員として働くのに必要な資格です。

（3）司書教諭

学校図書館で専門的職務に従事することのできる資格で、教員免許状を有することが基礎資格となります。

（4）学芸員

博物館で、資料の収集、保管、展示、その他の専門的職務に位置する職員となるための資格です。

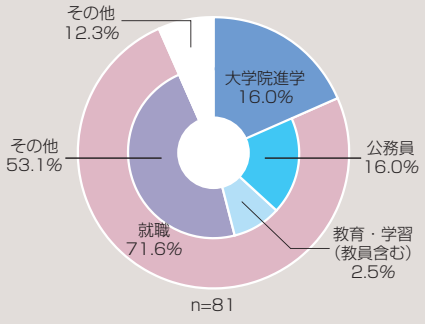
心理臨床家への道

近年「公認心理師」「臨床心理士」をはじめとする「こころの専門家」を目指す人たちが増えてきています。一定の要件を満たした大学、大学院において所定の単位を修得することにより「公認心理師」や「臨床心理士」の受験資格を得ることができます（p.14を参照）。本学を卒業後、「公認心理師」や「臨床心理士」の資格を取得し、教育、医療・保健、福祉、産業、司法・矯正の領域でこころの専門家として活躍している人が数多くいます。

最近の卒業生の主な就職先

アイシン精機、愛知県、旭化成、一宮市、エイチ・アイ・エス、エーザイ、エス・ティー・ワールド、NHK、NTTグループ、家庭裁判所、河合塾、紀伊國屋書店、京セラ、麒麟麦酒、岐阜県、厚生労働省、最高裁判所、サントリー、JR東海、JR東海ツアーズ、JTB、島津製作所、清水建設、スズキ、住友金属、住友商事、住友生命保険、積水ハウス、ソニー、中外製薬、中日新聞、中部ガス、中部日本放送（CBC）、デンソー、TOTO、東海テレビ、東京海上日動火災保険、東京都、東芝、トヨタ自動車、豊田市、トヨタ車体、名古屋市、名古屋大学、名古屋鉄道、名古屋テレビ、日産自動車、日本IBM、日本ガイシ、日本生命、日本電気、日立金属、博報堂プロダクツ、パナソニック、ブラザー工業、富士ゼロックス、富士通、ベネッセ、法務省、松坂屋、マツダ、丸善、丸紅、三重県、三重電子計算センター、三井化学、三井住友海上火災保険、三井住友銀行、三菱UFJ銀行、三菱電機、明治図書出版、名鉄百貨店、ヤマト運輸

教育学部：卒業生の進路（2020年度）



留　学

留　学

名古屋大学には2019年度、約120カ国から2,700名の留学生が来学し、学習･研究に励みました。また、2019年度に名古屋大学から海外の大学等に留学した学部生・大学院生は、約1,100名にのぼります。

本学部は、学部生・大学院生が海外に留学するのを応援しています。1981年、アメリカのカリフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）との間に、1996年には、カナダのトロント大学オンタリオ教育研究所（OISE）との間に、大学院生の交流協定が結ばれました。また、同じく1996年には、中国上海の華東師範大学教育科学学院と、学部生・大学院生の交流協定が結ばれ、学生の交流を行っています。今日では、本研究科･学部独自の部局間国際交流協定のもとで、中国、台湾、インドネシア、モンゴル、ドイツ、アメリカ、シンガポールの計7の国・地域、11の大学・学部と交流を実施しています。現在、名古屋大学が中心となって大学間交流協定を結んでいる海外の大学は200校を超えています。

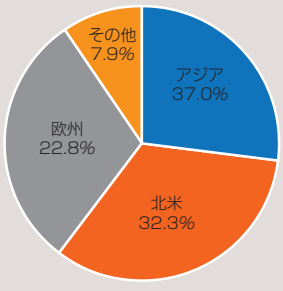
これまで、本学部関係の学生が留学した主な大学は以下のとおりです。オバーリン大学(アメリカ)、レスター大学(イギリス)、ロンドン大学（イギリス)、ローマ大学（イタリア)、フィレンツェ大学（イタリア)、フンボルト大学（ドイツ)、コペンハーゲン大学(デンマーク)、シカゴ大学（アメリカ)、スタンフォード大学（アメリカ)、ウィスコンシン大学（アメリカ)、UCLA（アメリカ)、ノースカロライナ州立大学（アメリカ)、ミネソタ大学（アメリカ)、南京大学（中国)、北京大学（中国)、北京第二外国語大学（中国)、吉林大学（中国)、ディポネゴロ大学（インドネシア)、OISE（カナダ）など。奨学金制度も充実しています。海外留学を前向きに考えてみてください。

● 留学先の例

▼学生の留学先（2012年度以降）

アメリカ・イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校、デンマーク・コペンハーゲン大学、トルコ・ビルケント大学、フランス・ストラスブール大学、カナダ・トロント大学、スウェーデン・ウプサラ大学、アメリカ・シンシナティ大学、アメリカ・ミネソタ大学、中国・香港中文大学、アメリカ・セントオラフ大学、シンガポール・南洋理工科大学など

教育学部生・大学院生の留学先（2018～2020年度）



n=127

施設/同窓会/学生生活

図書館

名古屋大学附属図書館 教育発達科学図書室

中央図書館は、約１２２万冊（うち和書７０万冊、洋書５２万冊）の蔵書を誇る中部圏では有数の図書館です。また電子ジャーナルや各種のデータベースを契約しており、学内のどこからでもインターネット経由でアクセスできる充実した情報環境を備えています。

そしてキャンパス内には、各研究科・研究所等に設置された２５の図書室があります。

本研究科・学部の図書室は、教育学・心理学分野の資料を中心に収集しています。約１４万冊（うち和書９万冊、洋書5万冊）の蔵書と雑誌の純タイトル約1，３３０種（うち和雑誌９４０種、洋雑誌３９０種）を擁し、中部圏では重要な知的財産の宝庫であると同時に、優れた情報検索能力と各種サービスにより、学術的探究の重要な足がかりとしての役割を担っています。

https://www.nul.nagoya-u.ac.jp/edu/index.html

同窓会

名古屋大学教育学部同窓会

教育学部同窓会は５０００人以上の卒業生から構成され、２０２２年3月には第７０期生を迎えました。同窓会は毎年名古屋大学ホームカミングデイにおいて総会を開き、特に顕著な活動をなされている同窓生を講師に招いて、公開講演を開催しております。また、教育学部の近況や卒業生に関する情報を会員にお届けするため、ニュースレター「通信」を発行しており、卒業後も母校とのつながりを推進しています。

その他に、同窓会は「２１世紀人間発達学術研究基金」を設立し、社会的貢献度の高い同窓生の研究プロジェクトを支援するための助成金を提供しております。同窓会の URL は以下の通りです。

https://www.educa.nagoya-u.ac.jp/~nusea/index.html

最近の同窓会公開講演

2021年度　後藤宗理（椙山女学園大学学長）、窪田由紀（九州産業大学教授）、永田雅子（教育学部教授）、中谷素之（教育学部教授）、「コロナ禍を乗り越える大学教育・学校教育の挑戦」

2020年度　金子大輔（北星学園大学教授）、向井昌紀（愛知県立名古屋西高等学校教諭）、坂本將暢（教育学部准教授）「ウィズ／ポストコロナの教育･研究のあり方―アナログとデジタルは『混ぜるな危険』か?」

2019年度　大谷尚（教育発達科学研究科特任教授）「質的データ分析手法 “SCAT” の開発とその展開から学んだこと」

2018年度　内田良（教育学部准教授）「学校の日常を『見える化』する」

2017年度　牧野隆広（ミライプロジェクト代表取締役）、石原正敬（三重県菰野町長）、鈴木亮子（鈴鹿医療科学大学准教授）「高齢者のウェルビーイングを考える―充実した人生を生きるために」

学生生活

教育学部は他学部に比べて少人数の学部であり、大学院生を含めて縦割りの交流が活発に行われています。学部内のフリースペースや中庭には、いつでも１年生から大学院生までが気楽に集まり、貴重な情報交換・交流の場となっています。

学生自治会

大学において、学部の自治の一翼を担い、活動を行っていく組織が学生自治会です。学生数の少ない教育学部では、まとまりのある自治活動が行われています。具体的には、半期に一度、学生生活向上のために学生自治会総会を開き、学生の生活しやすい環境づくりのための要望を伝えています。

また、３月から４月にかけて、学部学生だけでなく、大学院生も参加、協力して、新入生歓迎会を行っています。

サークル活動

学生が主体的に取り組み、運営しているのがサークル活動です。講義や演習以外にもっと何かやってみたい人は、これらの諸活動に参加し、さらに青春を謳歌することができるでしょう。教育学部には次のような自主研究サークルがあり、レクリエーションも含め活発な活動をしています。

ちくさ日曜学校

1972 年に教育学部内のサークルとして認定されその活動がスタートし、ほぼ半世紀という長期にわたり、知的障害や自閉症などをはじめ各種の障害をもった人たちに寄り添い、発達支援の活動を地道に行ってきています。現在は月２回、名古屋市委託の障害者青年学級としてのボランティア活動が行われています。

2021 年にはこれまでの活動成果を評価され、「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰を受賞しました。

表彰状

ちくさ日曜学校 殿

貴団体は障害者の生涯学習支援活動の普及及び発展のために尽力し他の模範となる顕著な成果を挙げられましたのでここにその功績をたたえ表彰します

令和三年十二月七日

文部科学大臣 末松信介

入学試験情報更新

※以下の情報は確定したものではありません。確定した情報については募集要項を参照してください。学部入試（推薦入試・前期日程・私費外国人留学生入試）に関する情報は名古屋大学ホームページ「入学案内」から、ご確認ください。

第3年次編入学試験　教育学部では、既に何らかの学問分野で専門教育を受けた人、一定の学業を修めたのち社会的経験を積んだ人などで、新たに人間発達科学を学ぼうという人のために、3年次編入学の制度を設けています。

第一次選抜試験　2022年10月25日
第二次選抜試験　2022年11月4日
（願書受付　2022年9月28日～10月4日）

大学院博士前期課程第1期入学試験
2022年9月21日～22日（願書受付　2022年8月1日～8月5日）
大学院博士前期課程第2期入学試験
2023年1月24日～26日（願書受付　2022年11月14日～11月18日）
大学院博士後期課程入学試験（一般・社会人特別選抜・教育マネジメントコース・心理危機マネジメントコース）
2023年1月24日～26日（願書受付　2022年11月14日～18日）大学院博士前期・後期課程入学試験　※心理発達科学専攻のみ（海外学位取得者特別選抜）
2022年9月21日～22日（願書受付　2022年6月24日～7月22日）

詳細については、下記まで、お問い合わせください。
・名古屋大学大学院教育発達科学研究科／教育学部　入試担当
〒464-8601 名古屋市千種区不老町
電話（052）789-2606 FAX（052）789-4921

奨学金制度・授業料免除制度

経済的理由により就学が困難であると認められ、人物、学業ともに優秀な学生に対しては、奨学金給・貸与制度が設けられています。独立行政法人日本学生支援機構の奨学金が主なものですが、地方公共団体や民間育英団体の奨学金もあります。

経済的その他特別な理由により、授業料の納入が困難であり、かつ、学業優秀と認められる学生に対して、申請により、授業料の全額または半額を免除する制度があります。

留学生支援

名古屋大学では、教育推進部学生交流課、およびグローバルエンゲージメントセンターにおいて、外国人留学生の大学生活を支援するためのあらゆるサービスに努めています。

●**日本語教育**：国際言語センターでは、様々なレベル、内容に対応した日本語プログラムを用意し、大学における研究・勉学等に必要とされる日本語の技能の習得や日本文化理解のための教育を提供しています。

●**チューター**：来日後1年（学部生は2年）の間、外国人留学生には、大学院生などによる個別のチューターがつきます。学習・研究生活全般のアドバイスを受けることができます。

●**宿舎**：名古屋大学は、留学生用宿舎として様々なタイプの国際交流会館を備えており、主に新規渡日留学生を対象に6ヶ月～1年間入居することができます。

●**交流プログラム**：名古屋大学では、大学や地域の国際化を推進するために留学生と日本人学生や地域社会との交流プログラムを提供しています。

大学院教育発達科学研究科／教育学部には国際化推進室が設置されており、国際化推進教員が種々の相談・質問を受けつけています。お問い合わせは電子メールでお願いします。
E-mail: ryuugaku@educa.nagoya-u.ac.jp

学生相談

キャンパスの学生支援本部には、学生相談センター、キャリアサポートセンター、アビリティ支援センターの3つのセンターが設置されています。学生の心の健康や将来の進路など、皆さんの能力を発揮するための相談に応じています。また学生だけでなく教職員や保護者の相談にも応じて、豊かな学生生活のサポートをしていきます。

沿革

1945.4　岡崎高等師範学校設置
1949.5　新制名古屋大学発足、教育学部設置、同時に岡崎高等師範学校を名古屋大学に包括
1952.4　附属中学校・高等学校設置
1952.9　第1回教授会開催
1953.4　新制大学院発足、教育学研究科設置（教育学・教育心理学の2専攻課程）、
　　12講座に増設
1955.3　教育学部紀要第1巻発行
1956.4　学科を分離、教育学科及び教育心理学科設置
1959.11　学部創設10周年記念講演会開催
1963.11　東山地区に移転
1964.11　学部創設15周年記念祭開催
1971.3　特殊実験棟新築
1978.3　講義棟2階に大講義室及び演習室増築
1979.5　学部創設30周年記念式典、シンポジウム、公開講演会等開催
1980.4　14講座に増設
1985.4　心理教育相談室発足
1989.6　学部創設40周年記念式典、シンポジウム、公開講演会開催
1990.4　大学院教育学研究科に発達臨床学専攻課程設置
1993.4　15講座に増設
1996.4　第3年次編入制度の発足
1997.4　教育学科及び教育心理学科の2学科を人間発達科学科の1学科に統合
1997.6　人間発達科学シンポジウムを開催
1999.5　学部創設50周年記念式典開催
2000.4　大学院重点化により、研究科を教育発達科学研究科と改称（教育科学と心理発達科学の2専攻課程）、
　　高度専門職業人養成コース開設
2003.4　教育発達科学研究科棟全面改修
2006.4　大学院教育発達科学研究科教育科学専攻に教育マネジメントコース（博士後期課程）を開設
2008.4　大学院教育発達科学研究科心理発達科学専攻に心理危機マネジメントコース（博士後期課程）を開設
2009.5　学部創設60周年記念式典開催
2019.10　学部創設70周年記念式典開催

アクセス

●地下鉄（名城線）名古屋大学駅下車
●八事駅より市バス（本山方面）名大前下車　徒歩3分

❶本部　❷豊田講堂　❸シンポジオン　❹職員会館　❺附属図書館　❻文学部
❼法学部　❽経済学部　❾理学部　❿工学部　⓫農学部　⓬情報学部・全学教育棟
⓭体育館　⓮教育学部附属中高等学校　⓯広報プラザ　⓰ジェンダー・リサーチ・ライブラリ

名古屋大学

大学院教育発達科学研究科
Graduate School of Education and Human Development

教育学部
School of Education

名古屋大学大学院教育発達科学研究科・名古屋大学教育学部
文系教務課（教育担当）
〒464-8601 名古屋市千種区不老町
TEL（052）789-2606・2607　FAX（052）789-4921
https://www.educa.nagoya-u.ac.jp/

NAGOYA
UNIVERSITY